



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成30年4月6日

校長 福田 俊彦

平成30年度 南町小学校の教育活動

「なすことによって学ぶ」中で

校長 福田 俊彦

春、ハナミズキの新芽が初々しく感じられる中、新たな学年を迎えた子供たちの表情に、日常とは異なる思い感じることができました。夢や希望の芽ではないでしょうか。

さて、本校は昭和47年度に東京都教育委員会の学力水準向上事業指定校となり、現在の人権尊重教育推進校に至っています。「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子供」「互いを認め合い、差別をしない・させない・見過ごさない子供」をはぐくむ教育を進めています。このことを身に付けていくには、言葉として捉えるだけでなく日々の生活で経験することに関わらせて考えることが大切です。そのほとんどが仲間と共有する経験であり、自他の大切さを感じ、どのように行動したらいいか考える貴重な機会になります。「なすことによって学ぶ」の積み重ねです。このことを基盤とした今年度の学校経営の概要を示します。

1 「子供が生活を創る」「子供が子供をはぐくむ」 子供による伝統、文化の創造

開進第二中学校の「思いやり宣言」を受け、南町小学校の「思いやり宣言」が代表委員会の子供たちで作られてから3年目を迎えます。子供が子供に発信することで、よりよい学校を創っていく思いが強くなり受け渡されてきました。子供の本気はすごいです。このことは、6年生が下学年のあこがれの存在であることから分かります。「思いやり宣言」の内容を自らの行動目標として生活を送ってきた6年生の姿があったからです。新6年生にとっても6年生としての役割、責任を日々の生活の中で体験しつつ、南町小学校に新たな文化、伝統を創っていくことを期待しています。その先に「あこがれの6年生」という姿があります。

2 「わかる」「できる」授業を 主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びへ

教師が話し続ける授業、子供が受け身となる授業は行いません。学習への主体的な取り組みの始まりは、何を学習するのかを明確に捉えることにあります。必ず何をどのように学習するのかを伝えます。子供が戸惑うことがないような説明し、質問はより具体的にします。授業の途中でも学習内容を確認できる黒板への書き方をします。授業の終わりに学習内容を振り返ることができる黒板への書き方を工夫します。子供が自ら学習の積み重ねを確認できるノートの書き方指導をめざします。そして、学習内容で分かったこと、もう少しのことに関して自問自答し、次の目標がもてるような振り返りの場を設けます。

3 「自分の命は自分で守る」 危険を回避する力の向上を

これまでに経験したことのないような状況に直面することが考えられます。Jアラート、地震、暴風雨、竜巻、不審者、交通事故、多機能情報発信機の使用にともなうトラブルなど、子供を取り巻く状況は変化をします。自分を守る力は、成長とともに高めていかなければならないものです。学習の中で、訓練の中で、人事ではなく自らの問題として捉えることが大事になります。学校では、避難訓練やセーフティ教室、情報モラル教室、交通安全教室などの場を計画的に設けています。また、SNS学校ルールの徹底を進めています。「自分の命は自分で守る」力を高めていくには、ご家庭のご理解とご協力が欠かせません。

これまでも家庭、地域の皆さんには、「みんなの子供をみんなで育てる」南町小学校へのご理解とご協力をいただいております。今年度も宜しくお願いをいたします。